

【学会見聞録】

Annual Meeting of the International Cell Senescence Association
(ICSA2019 Athens)

関根 匠

大正製薬株式会社 フロンティアリサーチセンター

9月9日から12日にかけてギリシャのアテネで開催された国際細胞老化学会 (ICSA: international cell senescence association) に今回初めて参加させていただきました。会場は、アテネ中心地のシンタグマ広場から地下鉄で5駅ほど離れた Sotiria Hospital に併設される BRFAA (Biomedical Research Foundation Academy Of Athens) の建物で行われました。テーマは「Cellular Senescence: the bright & dark side」であり、OIS (Oncogene Induced Senescence) など細胞老化のメカニズムの両刃の剣ともいえる二面性に関してフォーカスされ、80以上の口頭発表、94のポスター発表がされておりました。演者としては、Brown University の John M. Sevidy 教授、Buck Institute の Judith Campisi 教授、そして来年、大阪で開催される本会議の会頭をされる大阪大学の原英二教授と、そうそうたる方々が登壇されました。今回、それぞれのセッションの後半には10分間や2分間のスピードトークも設定され、トピックスとしての短時間の演題もメリハリがあつて非常にわかりやすく面白い試みだと感じました。



学会会場 BRFAA 外観

今回は Drug Discovery のセッションもあり、注目すべき題としてはミネソタ大学の Paul D. Robbins 教授に

連絡先：関根 匠

東京都千代田区丸の内 1-9-2 グラントウキョウサウスタワー 9F

TEL : 080-1005-9287

E-mail : ta-sekine@taisho.co.jp

よる Senolytic 薬のスクリーニングの発表がありました。Mayo Clinic では dasatinib+quercetin やポリフェノールである fisetin を用いた7つの臨床試験が進行中とのことですが、さらに強力な誘導体を探索中というお話でした。現状知られている化合物ではポテンシャルが十分でないと考えられ、どのように展開されていくか興味深いところでは。

また、最近話題となっているエピジェネティック時計で有名なカリフォルニア大学ロサンゼルス校の Steve Horvath 教授からは、米国で高齢者に成長ホルモンと DHEA というステロイドホルモン、糖尿病薬メトホルミンを投与した試験の結果、高齢者で胸腺組織が再生され免疫系が若返るという結果が報告されました。老化に伴いゲノム DNA にメチル化修飾が蓄積していくエピジェネティック時計が老化のバイオマーカーとして期待されていますが、今回の試験によりエピジェネティック時計を巻き戻すことができるということが明らかとなりました。

他にも、細胞老化誘導作用を有する CDK4/6 阻害剤 abemaciclib による SASP 分泌抑制やプロテアソーム活性化剤である 18 α -GA による異常タンパクの蓄積抑制のような Senolytic とは異なるアプローチも報告されており、老化研究からの創薬が進むことが期待されます。



アテネ中心部の古代アゴラの遺跡と落書き

今回訪問したギリシャでは、日本の常識では考えられない出来事がありました。初日も夜8時半に終わる予定が10時過ぎまで延びて、それからウェルカムレセプションということで、夜遅くに暗い森のような病院の敷地を歩いて帰る体験をしました。また、会場の建物も荘厳な外観であるのに、中のトイレはドアが壊れたまま、便座がないなど、驚きの連続でした。また、アテネ中心部も古代アゴラの遺跡の下を走る地下鉄の壁も落書きで埋め尽くされており、多大なる歴史的遺産を受け継ぐものの、経済の破綻に苦しむギリシャの二面性を象徴する風景だと感じました。

今回は学会会場で国立長寿研究センターの清水孝彦先生から晩ご飯の席にお声がけいただき、副所長の丸山光生先生（日本基礎老化学会理事長）、梶山女学園大学教授の本山昇先生と、二日にわたり趣向の異なる美味しいギリシャ料理を堪能しました。このような異国の地での出会いは印象深く、忘れられない思い出となりました。有意義で楽しい時間を過ごすことができたこと、この場をお借りして御礼申し上げます。



右から長寿研 清水先生、丸山先生、筆者、梶山女学園大 本山先生